

1995 9/12 大島新聞

島 唄

坪山さん

見事な調和

酒井さん

オルガン

南海日

95-9/11

900人の聴衆を魅了

名瀬市
自主事業

名瀬市の自主文化事業「調べ」が十日夜、奄美文化センターホールであった。代表するオルガニスト・酒



息の合った共演をみせた坪山さんと酒井さん

井多賀志さんが共演。約九百人の聴衆は島唄とオルガンの音色が織りなす珍しいステージに、興味深そうに聴き入っていた。

コンサートは、酒井さんの「赤トンボの主題による変奏曲」でオープニング。坪山さんが「あさはな節」「へんたんと節」などを歌

した。今回のメインとなった島唄とオルガンの共演では、坪山さんと酒井さんが「綾蝶（あやほろ）節」「嘉徳なべ加那節」「やちや坊幻想曲」など天曲を披露、三回目の共演とあって息の合った二人は、島唄とオルガンの響きを見事に調和させ、会場から盛んな拍手を浴びていた。

また賛助出演した名瀬市立少年少女合唱団も「ねんねがせ」など奄美の童歌四曲を元気に歌った。

幻想的な調べに酔う

島唄とオルガンが競演

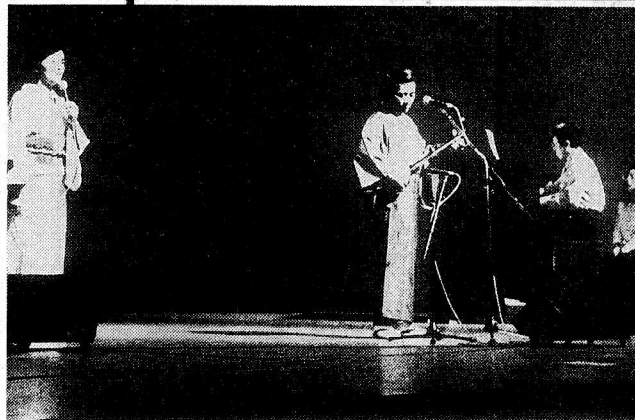
文化センター

奄美島唄とパイプオルガン（名瀬市・市教委主催）が、島の幻想的なハーモニーを、十日夜、奄美文化センターホールであった。コンサートには約八百人の観客が来



このコンサートは、市が自主文化事業の一環として開いたもの。賛助出演として、市立少年少女合唱団も登場した。

坪山さんは宇検村出身。船大工のかたわら、ウタシャとして島唄の魅力を歌い伝えている。ロックバンドなどのジョイントコンサートにも意欲的。オリジナル活動を主とし、酒井さんとは、お互い創作活動をしていることで息が合っていた。今回は三回目の共演。当日は、郷愁の念を誘う「赤トンボの主題による変奏曲」から始まり、「あさはな節」「トッカータ」など演奏された。子どもから大人までお馴染みのナンバーや、パイプオルガンが加わって、雄大な音楽に生まれ変わった島唄「行きよつれ節」や「坊間曲」などは、聴く人を魅了した。最後は、アンサンブル「渡しゃ」で幕を閉じた。



島唄とパイプオルガンが見事にマッチした「珊瑚礁の風とオルガンの調べ」